



## いわき万本桜プロジェクト

2015年6月20日(土) (いわき市平中神谷字地會作7)  
代表・志賀忠重、坂本雅彦、佐々木恭子の各氏

### 記念植樹と奉仕作業

青々とした田園風景の奥に小高い山が目に入りました。山腹には「万本桜」の文字が。

当初は訪問日に植樹を行う予定でしたが、好天が続いたため、予め用意してもらった苗木が弱ってしまうことが予想されたので、事前に代行植樹をしていただきました。2本の苗木が植樹された場所に着くと、藤弥一司理事長と柳原副理事長により、参加者全員でメッセージを書いた札がくり付けられました。

その後、全員で苗木に肥料となるもみ殻をかけ、周辺の下草刈りを30分ほど行いました。佐々木さんが着ているTシャツの背中には《草刈(ガ)ール&草刈(ガ)イ》(kusa girl & kusa gui)の文字と《いわきを世界一の桜の名所に!》というスローガンが。

聞くと、冬場の枝打ち作業以外は年中下草刈りをしているとのこと。夏本場前という時節柄、広大な敷地は下草だらけです。毎日ボランティアが午前9時に集合し、その都度エリアを決めて草刈をしているそうです。

### 志賀代表の思いと力強い支援者たち

草刈作業のあとは山を切り開いた一角に作られている回廊美術館の中にある広場で、志賀代表のお話を聞きました。

なぜ志賀代表がこのような取り組みを始めたのでしょうか。

震災発生時、被災地の中と外で全く反対の報道がされていることや、物資の配給にかかる対応から、志賀代表はメディアや行政に対する不信感をもっており、独自に避難所での炊き出しや他県で調達したガソリンを運び続けたそうです。お手伝いしてくれる地元の方には給金やガソリンを支給し、2~3ヵ月のうちに300万円を使ったエピソードや、現在世界的に著名な中国人画家、蔡国强(さいこくきょう)がまだ無名の時代に代表から受けた数々の支援への恩返しとして、回廊美術館の設計・建設をはじめ、作品を通じての広報や多額の資金援助、活動を大きく支えてくれている事など、代表のこれまで築いてきた人との絆の強さ、大らかで穏やかな人柄に、私たち参加者は途端に引き込まれてしまいました。坂本さんから、志賀代表と共に活動することで「生きる術」を伝授されているという話を聞かされ、このプロジェクトにおける志賀代表の存在の

大きさを強く感じました。

志賀代表が万本桜の取り組みを始めるきっかけとなったのが、息子さんからのメールに書かれた「海藻を採って食べたり山で遊んだり小さい頃にしていたことができなくなってしまった」という一文や、初めて植樹しようとした時(プロジェクトにする前)に山林の提供を受けたおじいちゃんから「嫌な時代に生き残ってしまった」などという嘆きを聞き、未来に対する懺悔の気持ちが芽生えたこと、そして何とかしたいという想いだっただけです。桜の植樹は99000本を目標としていますが、植樹できる時期やスペース等の制限により、年間400本が植樹の限界です。そうなると目標達成にはこの先240年はかかってしまいます。志賀代表をはじめ、現在のサポーターがいない時代にいかにしてこのプロジェクトを継続させてゆけるかが大きな課題となっています。また、かつては伐採した木を買い取ってもらうこともできましたが、現在は放射線量のことから処分に費用がかかるため、植樹するためには常にお金がかかるという問題も抱えているそうです。

「何かと課題の多いプロジェクトではあるが、取り組みを通じて得たものも大きい」と志賀代表。「なぜやっているかと問われれば、自分のためと言えるようになった。もし何もしていなければ自分は今頃どうなっていたのかと思うと恐ろしいと思う。今していることによって精神力、生命力、筋力が鍛えられており、どんどん若返っているとすら思える。ボランティア精神にあふれる若者達に活動の場を提供することは、彼らの思いを実現させることにも繋がるほか、世代を超えた人同士の想いが混ざり合う場になっている」とのこと。

回廊美術館には、大きな支援者でもある蔡国强氏が作品展示を通じていわきを支援していることが紹介されているほか、地元小学生が未来に向けて想い描く桜の山の絵がずらりと並び、ピンク色の壁面が続いていました。

### 商品販売支援が繋げた縁

私たちさくらメンバーが回廊美術館を訪れる知らせを聞いて家族で駆けつけたのが、福島県立平商業高等学校の高田先生。ネットワークさくらでは、この学校の生徒達が作り出した「フラムーネ」や「かつりんとう」などの食品を販売しており、先生からは協力に対する感謝の言葉をいただきました。

## オーガニックコットンファーム (ハイジの里山)

2015年6月20日(土)

### 未来を担う子ども達のために

小島悦子さんが自宅の裏山に作る「ハイジの里山」で篠竹刈りのボランティアをしました。近隣の区長さんらも参加。「子ども達は平等であるべき」と親ではなく、第三者だからこそ育てていくという気持ちを大切にしたいとの思いから「ハイジの里山」を計画。将来、ここにツリーハウスやブランコなどを作りたいと言われます。

篠竹刈り作業の後、(有)木紅木(きくもく)でオーガニックに携わる菅野知美さんの挨拶や、小島さんが自宅横に作る「千日紅の会」のメンバー5人による手作りパウンドケーキをいただき、ティータイムを楽しみました。



## 交流会

### オリーブ話に花咲く☆

交流会では、「いわき万本桜プロジェクト」と「オリーブプロジェクト」の皆さんにもご参加いただき、お互いの状況や抱える問題点など、たくさんのお話に花が咲きました。

また、「オリーブプロジェクト」で販売されているオリーブの葉を練りこんだパスタの試食も行なわれ、参加メンバーからは「石川でも作れないか」といった言葉も出て、予定の時間を大幅に超えた交流会となりました。



## 参加者アンケート

参加者の皆様のお声です。ありがとうございました。(回答数: 13)

### ●浜風商店街

学校の中というロケーションに驚いた/ここだけ時間が止まっているように見えて、ここにいる人達の意識が進んでいるのかと思った/同じ風景とおもてなし/元気なおばちゃんたち/良くも悪くも変わらない/新たな問題が出てきているのか?/お休みのお店があり残念/そのまま存続して行けるのか心配/商店街がいずれなくなることは寂しいが、それが発展に繋がると思う/ラーメンおいしかった/平日の様子も見てみたい

### ●オリーブプロジェクト

能登島も頑張ってるらしい/負けられない/時間が足りず残念/他の訪問地を比べて印象が薄かった/今後を見守りたい/成功を祈る/チャレンジ精神に勇気をもらえた/プロジェクトについて知らない/何をしていたか分からない/小さい子供や老人を1人でできない/行政との連携と個人でできる事/コミュニティーがないので自分の存在に気づいてもらえる不安

### Q4: 自分の住む町に災害が起こった際の不安要素

避難場所に対する不安/物資・家族・ライフライン・情報/人付き合いが希薄で自分の命は自分で守らなければならないと思うが、そのためのノウハウがない/住む場所(非難した人ともとの住民との関わり方)/離れて暮らす家族の事/導いてくれる人がいるのか分からない/何をしていたか分からない/小さい子供や老人を1人でできない/行政との連携と個人でできる事/コミュニティーがないので自分の存在に気づいてもらえる不安

### Q5: 参加してみたい講座

県の備蓄庫の見学/石川県で起こりうる災害について/家族の守り方/災害別に対応の仕方/救命方法(AEDなど)/東北の現状/危機意識を持続するには/人との繋がり作りのきっかけになるようなセミナーやイベント(特に子供達を守るためのもの)/支援のあり方/自分が何をすればいいか、どんな準備が必要か/行政等の備蓄品を知った上で不備がないかを議論したい

### Q6: またツアーに参加したいですか?

- 参加したい: 8名
- 参加したくない: 1名(参加に対する目的が違う)
- 無回答: 4名(微妙・テーマによって考えたい)